

困難を有する若者に関するアンケート  
調査報告書

平成25年9月

山形県子育て推進部  
若者支援・男女共同参画課

# 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果	
1	民生・児童委員に対する調査結果	2
(1)	困難を有する若者の該当の有無	2
(2)	該当者の人数	3
(3)	該当者の性別	3
(4)	該当者の年代	4
(5)	家族構成	5
(6)	対象者の状況	5
(7)	困難を有する状況の期間	5
(8)	困難を有するに至った経緯	6
(9)	支援の状況	6
2	主任児童委員に対する調査結果	
(1)	困難を有する若者の該当の有無	7
(2)	該当者の人数	8
(3)	該当者の性別	8
(4)	該当者の年代	9
(5)	家族構成	10
(6)	対象者の状況	10
(7)	困難を有する状況の期間	10
(8)	困難を有するに至った経緯	11
(9)	支援の状況	11
3	自由記述欄への回答状況（主なもの）	
(1)	困難を有する若者等に必要な支援策	12
(2)	その他の意見	13

## III 資料

- 平成 25 年度困難を有する若者等に関するアンケート 調査票

# I 調査の概要

---

## 1 調査目的

長期にわたるひきこもりなど、社会生活に参加する上で困難を有する若者については、客観的な定義が明らかでないこと、疾病や障がいと異なり社会的支援が用意されない問題として捉えられがちであったことなど、その性格上、これまで本人や家族に対する実態調査では把握が困難とされてきた。

この調査は、地域の実情に通じた民生委員・児童委員や主任児童委員（以下「民生・児童委員等」という。）に対するアンケート形式の調査を実施することにより、その状況を把握するとともに、本県における困難を有する若者に対する今後の施策の基本的なデータとすることを目的として実施した。

## 2 調査対象

この調査においては、次に該当するような方を「困難を有する若者等」とした。

(1) おおむね15歳から40歳までで、次のいずれかに該当する方

- ① 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方
- ② 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物などで外出することもある方

(2) おおむね40歳以上の方で、上記と同様の状態にある方

(3) 上記に準じる方で、ニート・非行など、民生・児童委員等からみて心配な方、また、家族の方から支援などについて相談があったことのある方

※ いずれも重度の障がいや重度の疾病で外出できない方を除く。

## 3 調査時期

平成25年4月～5月

## 4 調査方法

県内の全ての民生・児童委員等に対するアンケート調査  
(山形県民生委員児童委員協議会を通じて配布・回収)

## 5 回収結果（回収率）

- |             |        |         |
|-------------|--------|---------|
| (1) 民生・児童委員 | 2,204人 | (84.3%) |
| (2) 主任児童委員  | 222人   | (79.9%) |
| (3) 計       | 2,426人 | (83.8%) |

## II 調査結果

民生・児童委員と主任児童委員の両者に対し調査を依頼したが、民生・児童委員については町内会等を単位として援助を必要とする方全般について担当しているのに対し、主任児童委員については、中学校区等を単位とするより広い区域を担当し、地域の児童に対する援助の連絡調整を担当することとされている。

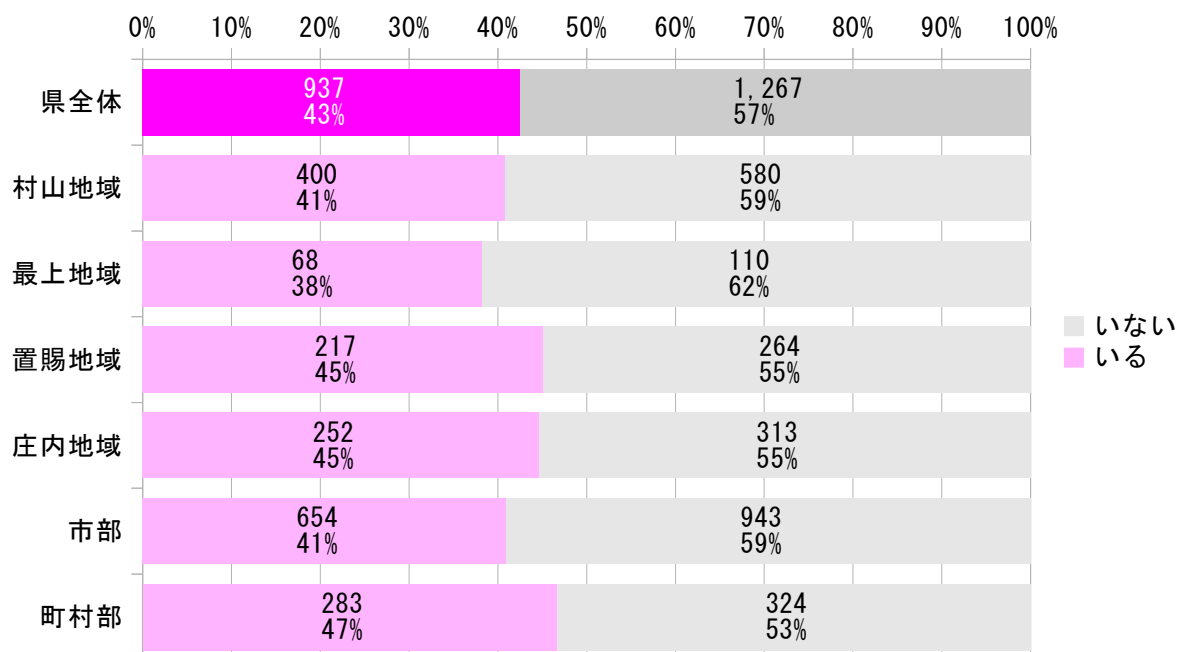
匿名で行った今回の調査では、民生・児童委員、主任児童委員それぞれの調査で、対象者が重複する可能性があることから、民生・児童委員、主任児童委員それぞれについて集計をおこなった。

なお、端数処理の関係で各項目の合計が100%とならない場合がある。

### 1 民生・児童委員に対する調査結果

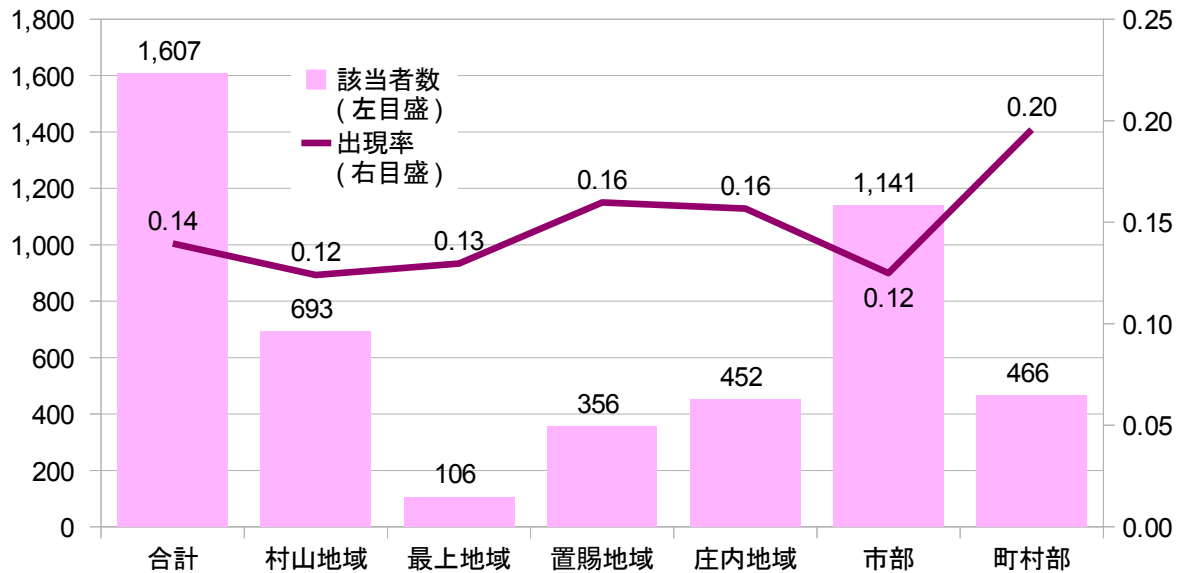
#### (1) 困難を有する若者の該当の有無

- 県全体では937名、43%の民生・児童委員が、受け持ちの地域内に困難を有する若者が「いる」と回答している。
- 地域別、市・町村部別に見ても、各地域とも38~47%と、いずれも40%前後の民生・児童委員が「いる」と回答している。



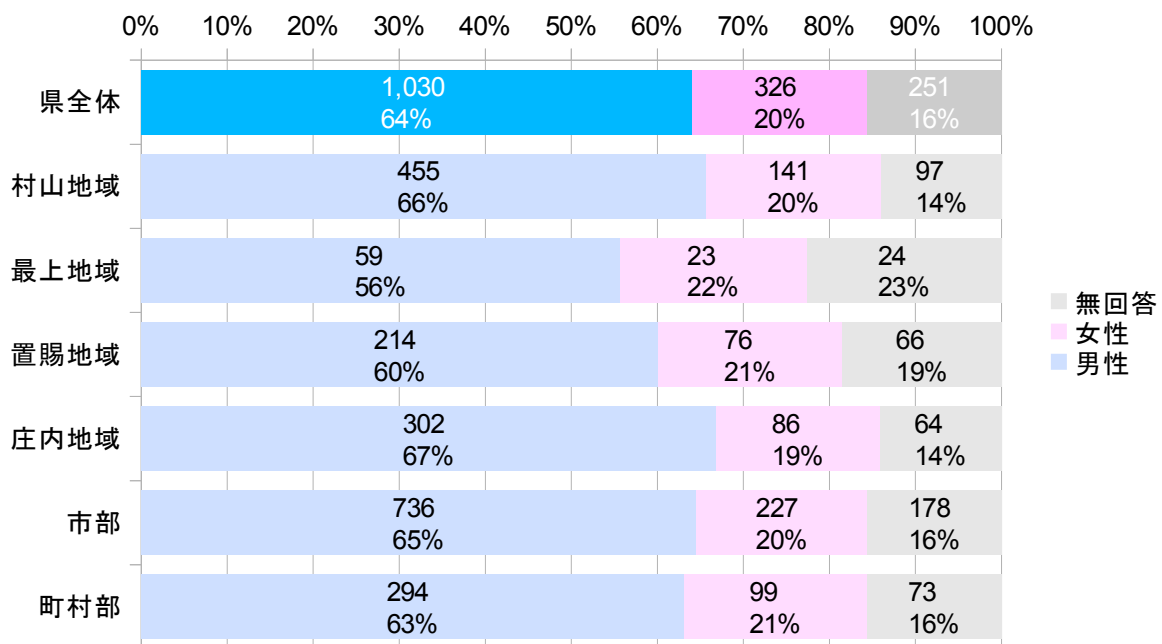
## (2) 該当者の人数

- 該当者（全年齢）の総数は1,607人となっている。
- 出現率（人口当たりの該当者数）を地域別に見ると、合計では0.14%となっており、地域別に見ると町村部が0.20%と市部に比べてやや高くなっている。



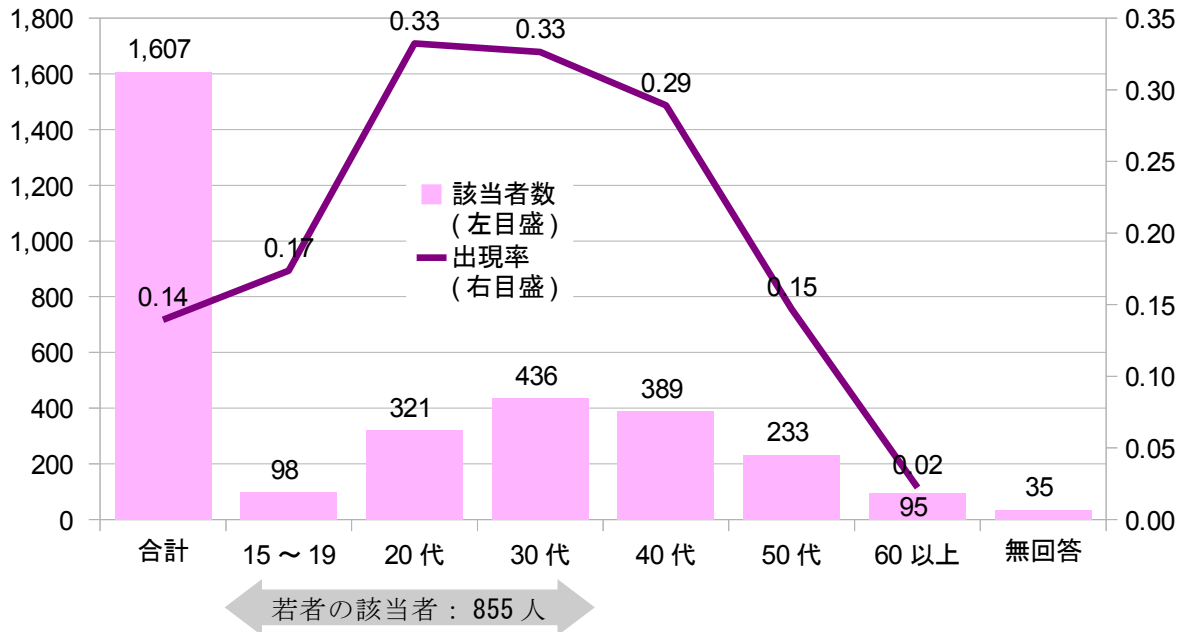
## (3) 該当者の性別

- 該当者の性別は、男性が64%、女性が20%、無回答が16%となっており、男性が女性の3倍程度と高い比率。
- 地域別、市・町村部別に見ても、2.5～3倍程度と概ね同水準。

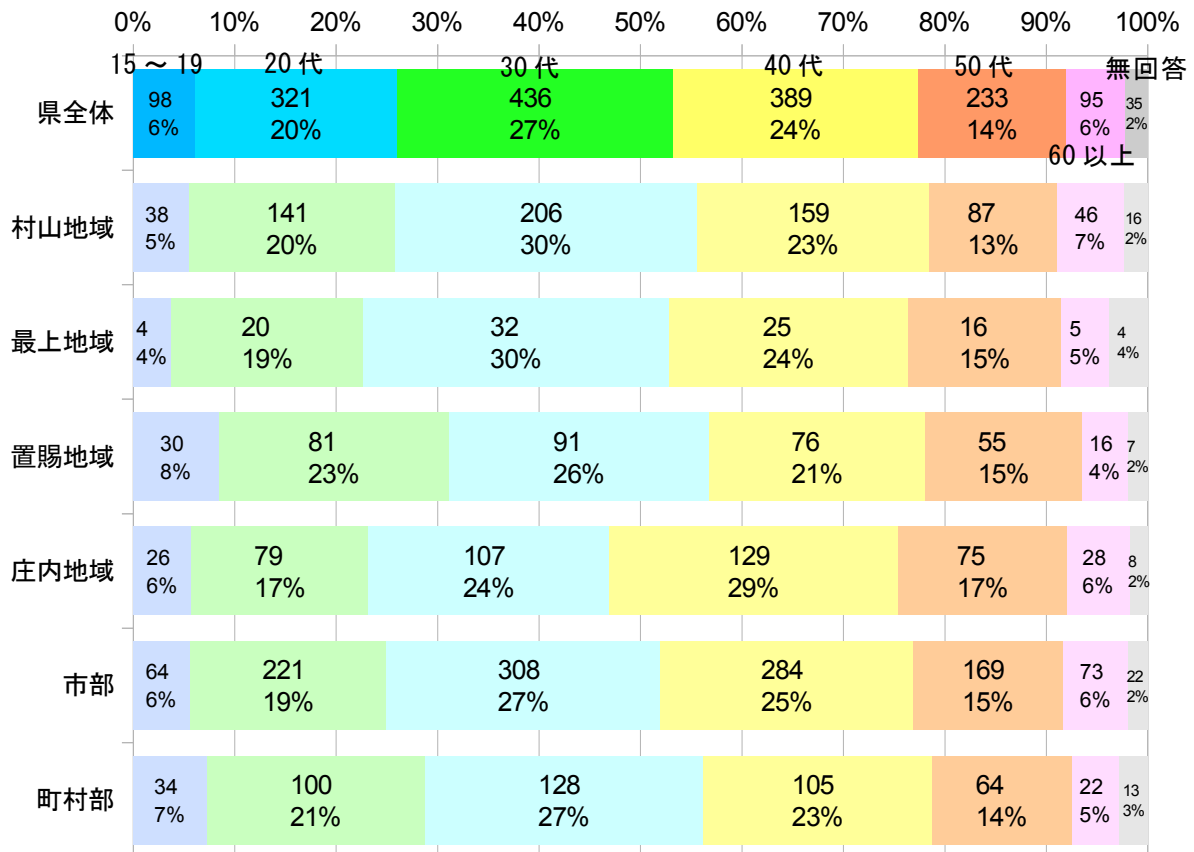


#### (4) 該当者の年代

- 年代別に見ると、15歳から39歳までの「若者」が855人、53%を占めている。
- 出現率を見ると、20代から40代が0.3%程度と比較的高くなっている。

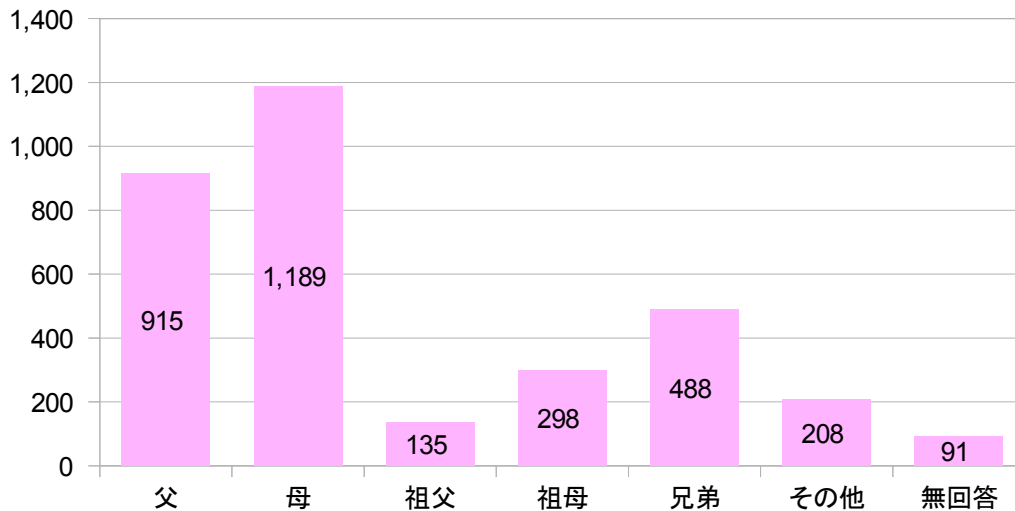


- 年齢の割合を地域別に見ると、差はあるもののいずれも全体と同様の割合となっている。



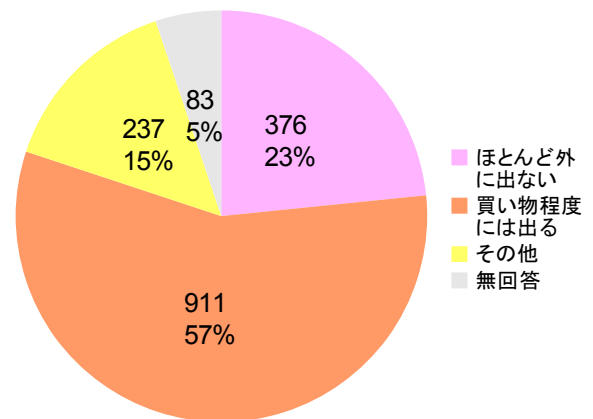
### (5) 家族構成（複数回答可）

- 家族構成では、父・母との同居が多いが、兄弟と同居している例も相当あった。一方、一人暮らしを含む「無回答」は少ない状況であった。



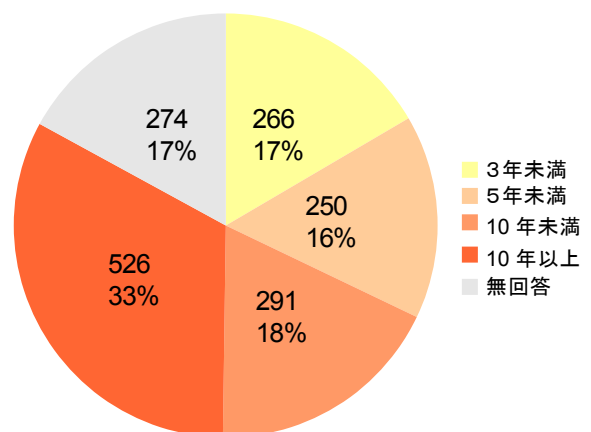
### (6) 対象者の状況

- 全体の80%が「ほとんど外に出ない」「買い物程度には出る」いわゆる「ひきこもり」となっている。
- 全体の半数以上が「買い物程度には出る」状況である。



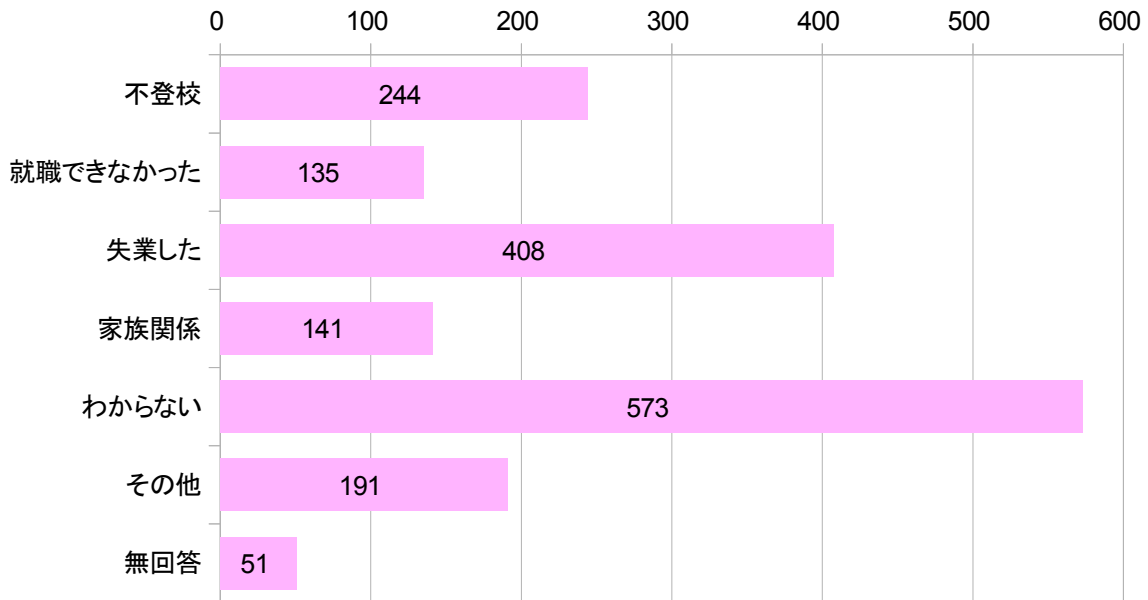
### (7) 困難を有する状況の期間

- ひきこもっている期間が3年以上に及ぶ対象者が3分の2、5年以上が半数を超える状況にあり、長期化が懸念される状況にある。



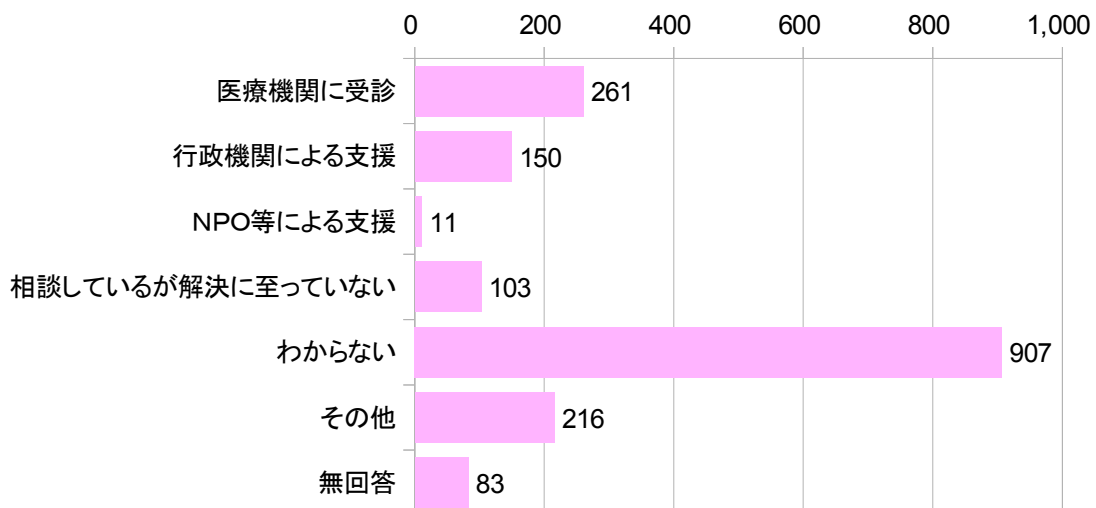
(8) 困難を有するに至った経緯（複数回答可）

- 「わからない」（573件）がもっとも多く、全体（1,607件）の36%を占めており、民生・児童委員の把握の困難さを示していると考えられる。
- 経緯がわかるものの中では、就労が原因のもの（「就職できなかった」及び「失業した」）が543件と、全体（同）の1/3を占めている。



(9) 支援の状況（複数回答可）

- 「わからない」（907件）がもっとも多く、民生・児童委員の把握の困難さを示していると考えられる。

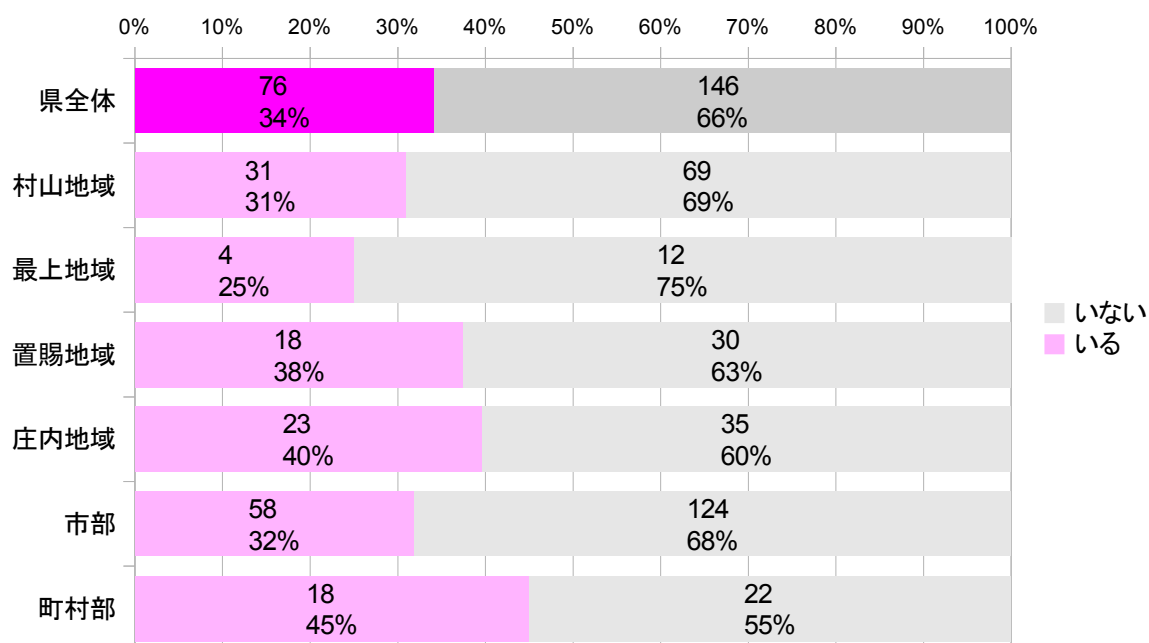




## 2 主任児童委員に対する調査結果

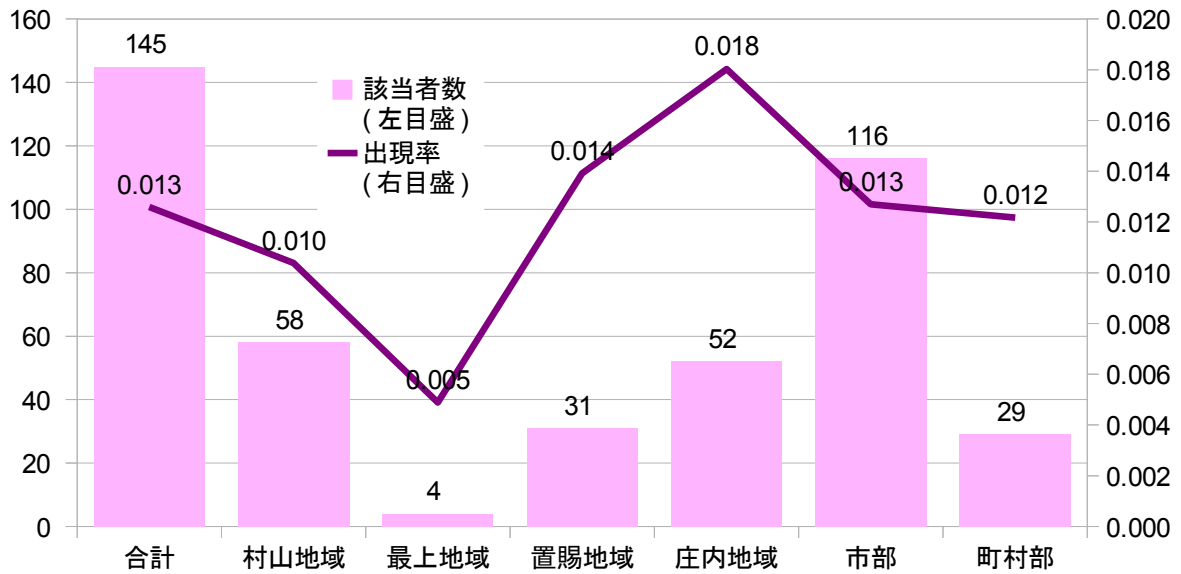
### (1) 困難を有する若者の該当の有無

- 県全体では76名、34%の主任児童委員が、受け持ちの地域内に困難を有する若者が「いる」と回答。（参考：民生・児童委員では42%。）
- 地域別に見ても、各地域とも25～45%と、いずれも30%前後の主任児童委員が「いる」と回答。



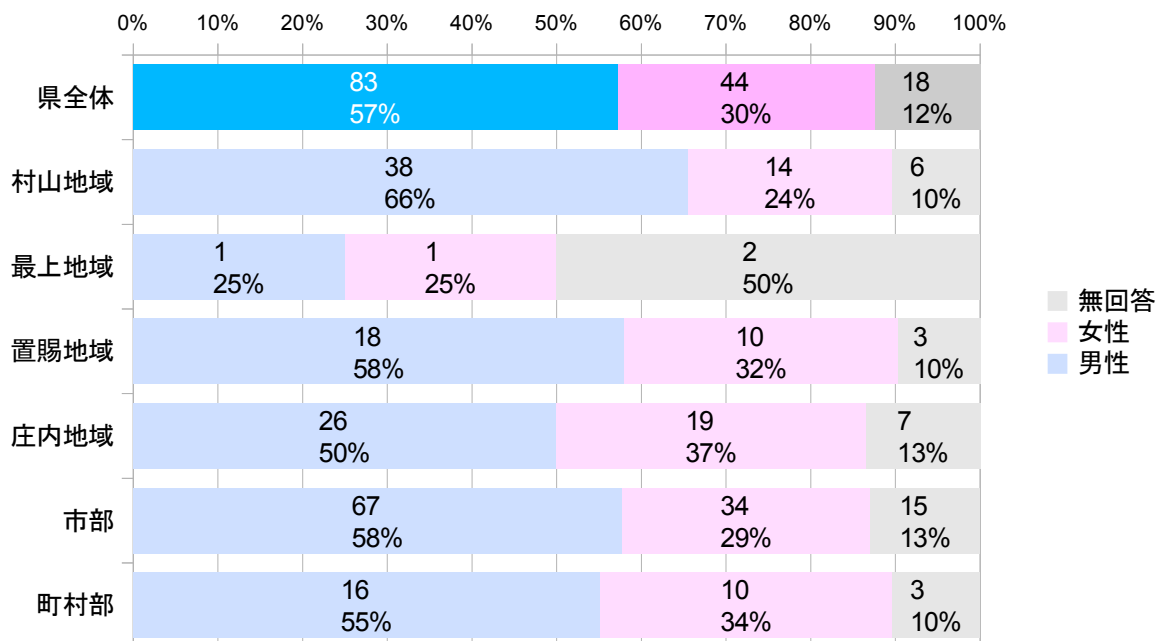
## (2) 該当者の人数

- 該当者（全年齢）の総数は145人となっている。  
（参考：民生・児童委員の場合、1,607人）
- 出現率（人口当たりの該当者数）を地域別に見ると、合計では0.013%となっており、民生・児童委員の場合の0.14%に比して低い状況にある。
- 地域別では、母数の少なさもあり、ばらつきが多い状況にある。



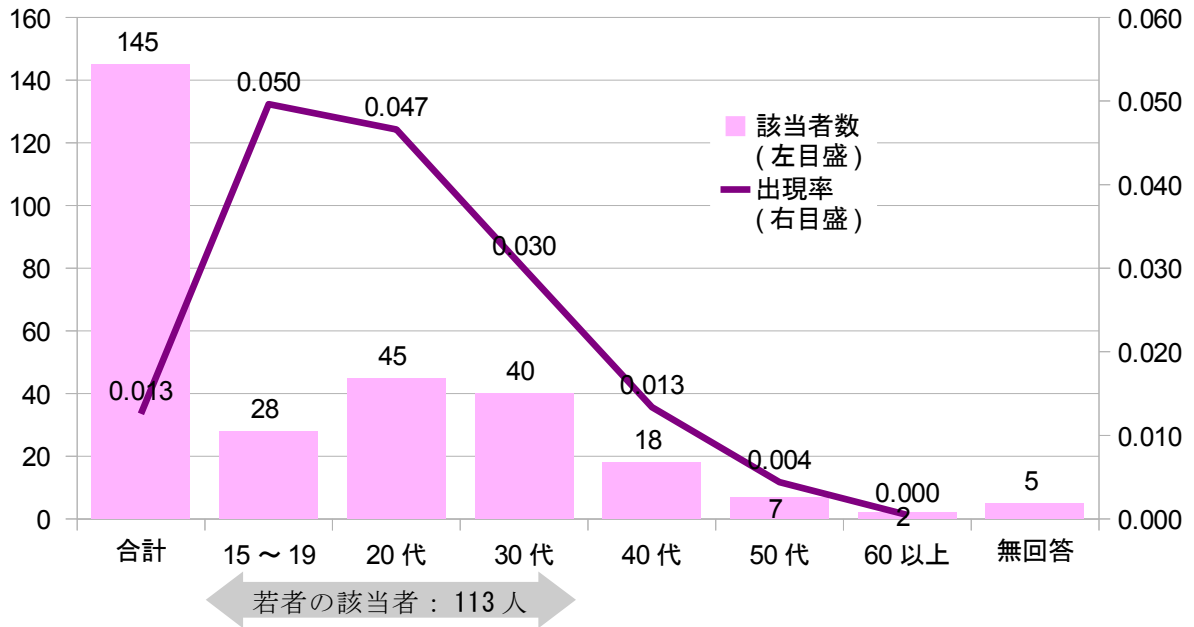
## (3) 該当者の性別

- 該当者の性別は、男性が57%、女性が30%、無回答が12%となっている。  
（参考：民生・児童委員の場合、それぞれ64%、20%、16%）
- 地域別、市・町村部別では、該当者数が少ないためかばらつきが多いものの、同様の傾向が見られる。

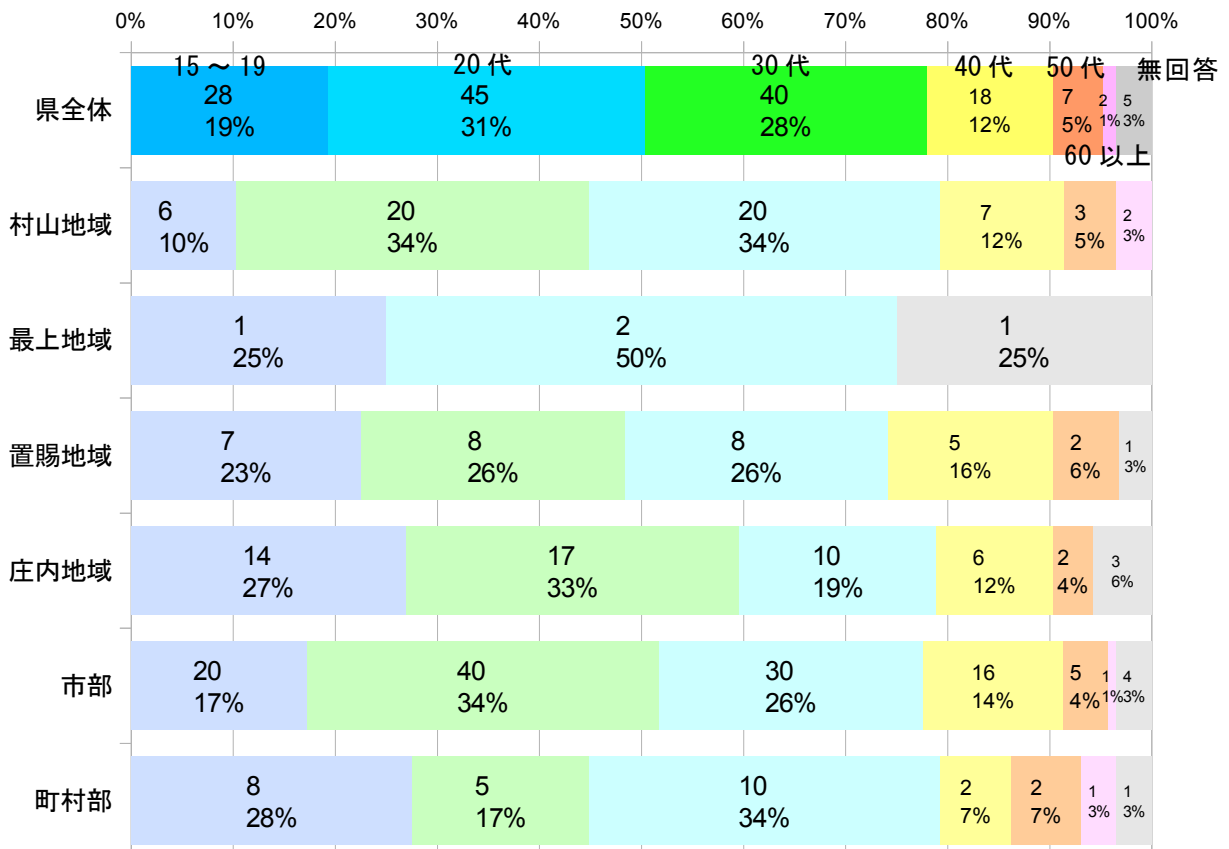


#### (4) 該当者の年代

- 年代別に見ると、15歳から39歳までの「若者」が113人で、78%を占めている。  
(参考：民生・児童委員の場合、53%)
- 出現率を見ると、20代までの若年層が高くなっている。

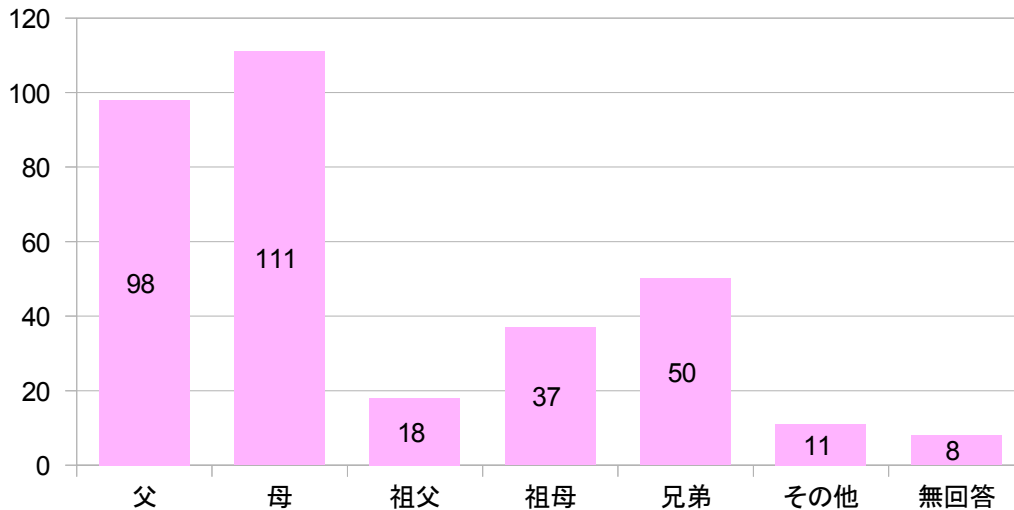


- 地域別、市・町村部別では、該当者数が少ないためかばらつきが多いものの、同様の傾向が見られる。



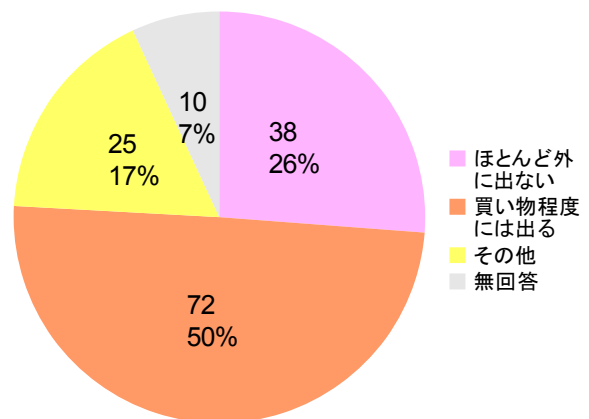
## (5) 家族構成（複数回答可）

- 家族構成では、父（98人）母（111人）との同居が多いが、兄弟と同居している例も50人ある。



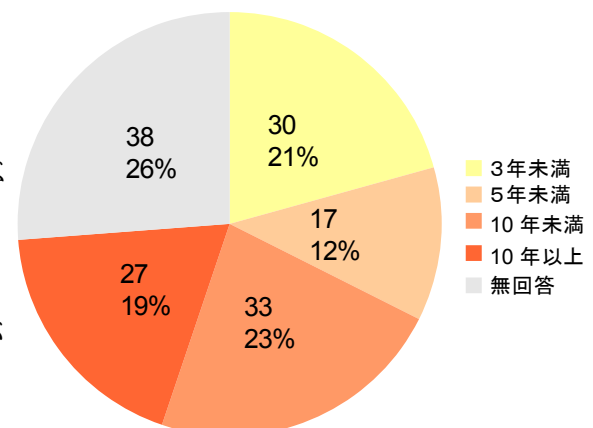
## (6) 対象者の状況

- 全体の76%が「ほとんど外に出ない」「買い物程度には出る」いわゆる「ひきこもり」となっている。
- 全体の半数が「買い物程度には出る」状況である。  
(参考：民生・児童委員の場合も同様の傾向)



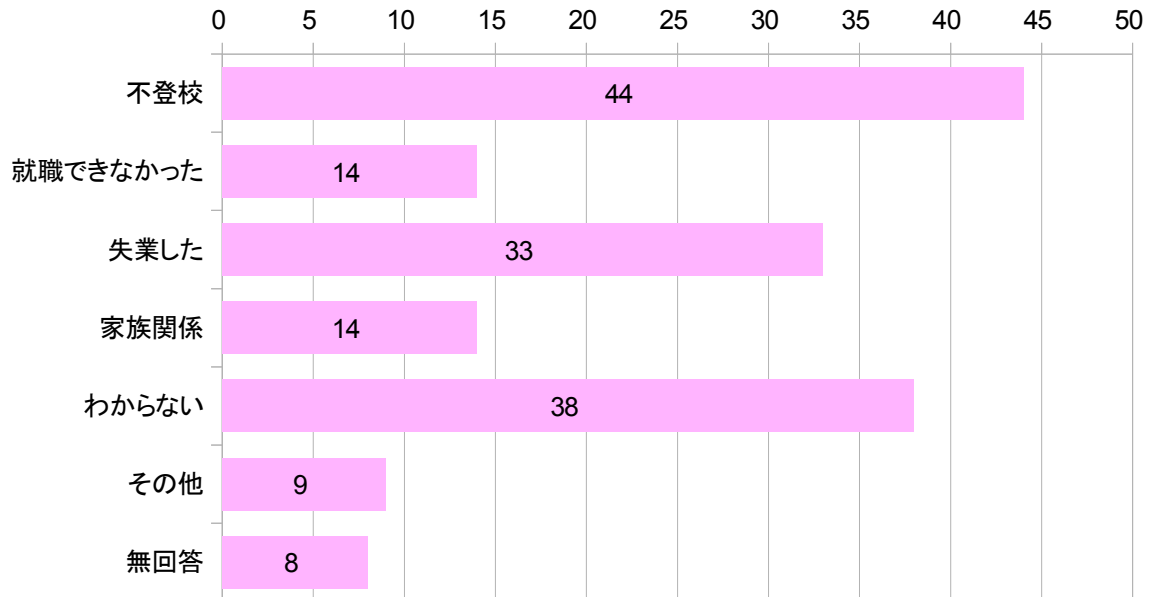
## (7) 困難を有する状況の期間

- ひきこもっている期間が3年以上に及ぶ対象者が54%、5年以上が42%となっている。民生・児童委員の場合、それぞれ67%、51%であり、把握対象者が若年層が多いためか、期間が短い傾向がある。



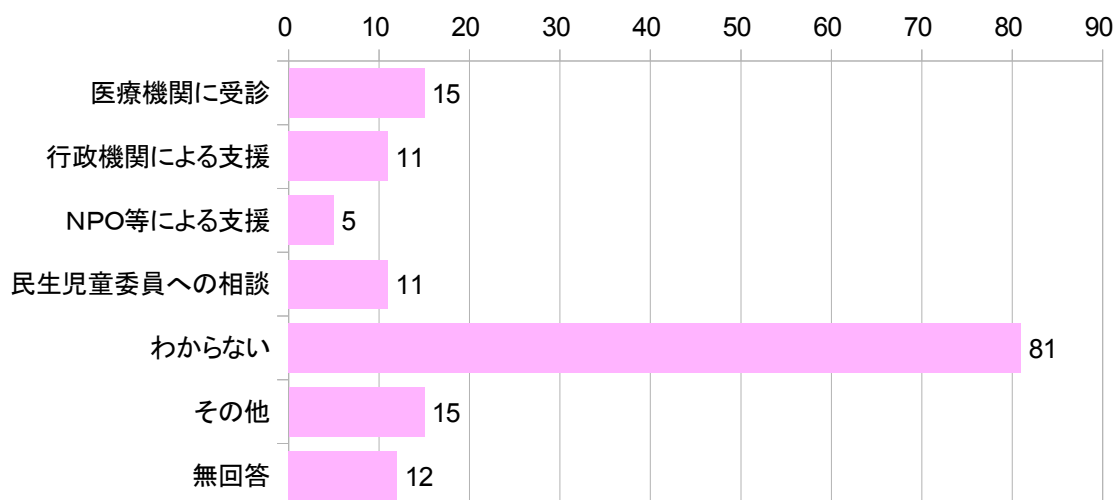
(8) 困難を有するに至った経緯（複数回答可）

- 不登校（44件）が最も多く、次いで「わからない」（38件）となっている。  
（参考：民生・児童委員の場合、「わからない」が最多）
- 主任児童委員は、学校との連携が強いことなどから、「不登校」が多いものと見られる。



(9) 支援の状況（複数回答可）

- 「わからない」（81件）がもっとも多く、全体（145件）の56%を占めており、主任児童委員の把握の困難さを示していると考えられる。  
（参考：民生・児童委員も同じ傾向）



### 3 自由記述欄への回答状況（主なもの）

#### (1) 困難を有する若者等に必要な支援策

##### ① 専門的な医療機関・カウンセリング等の充実

- ・ カウンセリングなど、本人の身になって共感、話し合いに応じる機会が必要。
- ・ 該当者はそもそも親との対話がままならない。専門的な方のカウンセリングや訪問を充実させることが不可欠。

##### ② 総合相談窓口の充実

- ・ 支援の最初の第一歩として、当事者の家族が些細な事でもざっくばらんに相談しやすい窓口の充実が必要。
- ・ 相談内容を地域や町内に知られたくないため相談できず困っている人もいると思う。
- ・ 個別ケースごとに支援内容も異なり相談窓口も変わってくると、どこの窓口支援を求めればよいのか戸惑うことが多々ある。

##### ③ NPOなど多様な支援団体の充実

- ・ 仕事に就いて、自らの稼ぎで生活が営めるような社会的支援が必要であり、ひきこもり該当者が自ら進んで働けるような環境づくり、就業に向けた支援を行う支援団体をもっと育成すべき。
- ・ 「決して駄目な人間などではなく他人に必要とされる人間なのだ」という自信を持つように、該当者に対して根気よく温かく接することができる組織が必要。
- ・ 障がい者の就業施設のように訓練できる場所の確保が必要。

##### ④ 支援・相談窓口の周知・PR

- ・ 若者が学校の帰り道にふらっと立ち寄れるような居場所が必要だと思う。そこで悩みを聞いてもらえる信頼出来る相談相手がいれば支えになるはず。
- ・ 該当者のいる家庭の多くが居住地の人達には事情を知られたくないと思うので、そういう心配のない相談窓口を設けて欲しい。
- ・ 相談を受けた側が的確な助言と相談部署への橋渡しを行えるような体制整備が必要。

##### ⑤ その他

- ・ 家庭の事情もあり、そう簡単には立ち入ることができない。他人には話しにくいようなことを聞き出し、本音を引き出せる相談相手がいれば好転するのだと思う。
- ・ 公的な支援を受けることに抵抗がある家庭は多いと思うので、より身近なところからの見守りや呼びかけなどが必要だと思う。

## (2) その他の意見

- ・ 民生委員は、高齢者や児童（主に小学生）に目をむけ、注意しているが障がいのない大人（特に若者）は対象外となっており実態がわからない。まして、こういう問題は家の恥として表に出てこないの行政側からのPRが必要。
- ・ 困難を有する若者がいることを家族は隠している。だからこそ、家族がそっと相談できる相談先、支援団体が必要。
- ・ 個人情報保護のもと、必要な情報が手に入らないことにもどかしさを感じる。
- ・ 中学生については地区民児協と教職員の懇談会があり、個別に必要な情報交換ができるのだが、高校以上になると地域で把握するのが難しい。
- ・ 該当者やその予備軍は学校や職場で何らかのシグナルを発しているはずで、それをキャッチするにはある程度知識をもったボランティアのような人の力が必要。
- ・ 家族や周りの声だけでは解決困難。幅広い活動を続けるNPOなどの力を借りて、本人の興味を引き出すのも解決方法では。
- ・ 専門的な相談も必要だが、気軽に話ができる場が必要と感じる。問題が大きくなる前にいろいろ話ができる場があればいい。
- ・ ニートや非行にかぎらず、行政の相談窓口は型にはまり過ぎていると感じる。相談したくても萎縮してしまうし、相談にも行きにくいのではないか。
- ・ これまで該当する方がなく考えてこなかった分野。アンケートが配布されたことで、より民生委員の役割も範囲を広げねばと考え直す機会になった。





## Ⅲ 資料

平成25年度

# 困難を有する若者等に関する アンケート

## 調 査 票

### 1 調査の対象

この調査は、次に該当するような方を「困難を有する若者等」とします。

- (1) おおむね15歳から40歳までで、次のいずれかに該当する方
  - ① 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方
  - ② 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物などで外出することもある方
- (2) おおむね40歳以上の方で、上記と同様の状態にある方
- (3) 上記に準じる方で、ニート・非行など、民生委員児童委員及び主任児童委員（以下、「民生・児童委員等」という。）の皆様からからみて心配な方、また、家族の方から支援などについて相談があったことのある方

※ ただし、重度の障がいや重度の疾病で外出できない方を除きます。

### 2 調査対象地域

あなたが民生・児童委員等として受け持っておられる地域とします。

### 3 調査の基準

平成25年4月現在とします。

※現在把握されている情報でご記入ください。当アンケート調査への回答のための戸別訪問や関係先等への照会は行っていただく必要はありません。

### 4 調査結果の取り扱い

調査結果は、市町村別・年齢別・支援の必要性などにより集計の上取りまとめます。個々の民生・児童委員等の方の回答が公表されたり、取材等に応じる形で外に出ることはありません。

市町村名 [                      ] 地区名 [                      ]

民生委員児童委員氏名 \_\_\_\_\_

問1 あなたの受け持ち地域に、次に該当する方は現在おられますか。

- (1) おおむね15歳から40歳までで、次のいずれかに該当する方
- ① 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方
  - ② 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物などで外出することもある方
- (2) おおむね40歳以上の方で、上記と同様の状態にある方
- (3) 上記に準じる方であって、ニート・非行など、民生・児童委員等の皆様からからみて心配な方、また、家族の方から支援などについて相談があったことのある方
- ※ ただし、重度の障がいや重度の疾病で外出できない方を除きます。

※A, Bいずれか該当する項目を○で囲んでください

- A いない ⇒問2へお進みください。
- B いる ⇒問3へお進みください。

問2 問1で「いない」とお答えの場合、過去の状況はいかがですか。

※A, B, Cいずれか該当する項目を○で囲んでください

- A 過去にさかのぼってもそういう方はいない
- B 現在はいいないが、過去にはそういう方がいた  
(昭和・平成 年頃)
- C 自分が民生・児童委員等になってからはいいないが、前任者の時期にそういう方がいたと聞いたことがある  
(昭和・平成 年頃)

⇒問4へお進みください。

問3 問1で「いる」とお答えの場合、その方の状況をお教えてください。

- 該当する方お一人につき、次ページの表の1列をお使いください。
- 該当する項目について、○で囲むか、[ ]内に記載ください。
- 1世帯に2人以上おられる場合は、1人につき1列をお使いください  
※4ページ・5人分あります。具体のご氏名は記入いただかなくて結構です。
- 該当する方が多く、用紙が足りない場合は、次ページ以降をコピーしていただくか、調査の事務局（山形県若者支援・男女共同参画課 電話023-630-2727）にご一報ください。該当部分の用紙をお送りいたします。

目	該当者A	該当者B	該当者C
該当する方の性別	男性・女性	男性・女性	男性・女性
該当する方の年齢 ※お分かりでない場合は、推測で結構ですので選択ください。	15歳～10代まで 20代前半・後半 30代前半・後半 40代前半・後半 50代・60代以上	15歳～10代まで 20代前半・後半 30代前半・後半 40代前半・後半 50代・60代以上	15歳～10代まで 20代前半・後半 30代前半・後半 40代前半・後半 50代・60代以上
該当する方の家族構成 (同居する家族の方を○で囲んでください。複数可です)	父 親・母 親 祖 父・祖 母 兄 弟・その他	父 親・母 親 祖 父・祖 母 兄 弟・その他	父 親・母 親 祖 父・祖 母 兄 弟・その他
該当する方の状況 ①6ヶ月以上ひきこもっている ②ひきこもってはいるが、買い物程度には出る ③その他(ニート・非行、ほか心配な若者/状況を簡単にご記入ください)	① ② ③ 〔 〕	① ② ③ 〔 〕	① ② ③ 〔 〕
ひきこもっている期間 (上の設問で①②の場合記入ください)	3年未満・5年未満 10年未満・10年以上	3年未満・5年未満 10年未満・10年以上	3年未満・5年未満 10年未満・10年以上
ひきこもりなどにいたった経緯 (お分かりになる範囲で結構です) ①不登校 ②就職できなかった ③就職したが失業した ④家族関係の問題 ⑤分からない(知らない) ⑥その他 (経緯を簡単にご記入ください)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 〔 〕	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 〔 〕	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 〔 〕
その方への支援の状況 (お分かりになる範囲、推測でも結構です) ①医療機関等の精神医療等の支援を受けている ②行政機関等の支援を受けている ③NPO等の支援を受けている ④分からない ⑤上記機関の相談は受けているが、解決できないで困っている。 ⑥その他 (⑤⑥は状況をご記入ください)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 〔 〕	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 〔 〕	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 〔 〕

※裏面にお進みください。

質問項目	該当者 A	該当者 B	該当者 C
<p>その他</p> <p>当該者に関して、特記事項があれば、自由にご記入ください。</p>			

問4 受け持ち地域のことにかかわらず、困難を有する若者等への支援策として、必要だと思われることをお答えください。

※A～Eの該当する項目を○で囲んでください(複数回答可)

- A 専門的な医療支援・カウンセリング等の充実
- B 総合相談窓口の充実
- C NPOなど多様な支援団体の充実
- D 支援・相談窓口の周知・PR
- E その他

上記の支援策が必要だと思われた理由を簡単にご記入ください

[ ]

問5 その他、ご意見やお気づきの点がございましたら、自由にご記入ください。

[ ]

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。



若者応援ポジティブキャンペーン

山形みらい計画

YAMAGATA MIRAI PROJECT